

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームあけぼのⅣ B	評価実施年月日	平成20年8月27日
評価実施構成員氏名	山田 美穂                      岡村 正弘                      山本 公子                      山崎 好枝 森本 隆英                      三上 安奈                      柴田 美和		
記録者氏名	山田 美穂	記録年月日	平成20年8月29日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>これまでの理念を見直し、全員でその人らしく暮らしていけるような理念を作成し、事務所に掲示している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>事務所に提示し共有している。また、社員証の裏に理念を書いた紙を入れ携帯している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家族や地域の方々には、運営推進会議とおし理念を伝えている。</p>	○	<p>今後は、事業所だよりや、町内会報を利用してもっと理念を理解してもらえるよう伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近所の人と会ったときは、積極的に声をかけるようにしており、また、玄関先に花を飾るなどして、立ち寄ってもらえるような雰囲気を作るように心掛けている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>前回の運営推進会議で民生委員の協力を得て、町内会に入ることができた。</p>	○	<p>今後は、地域活動に参加して交流の場を増やしていけるようにしていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>話し合いはしているが、まだ取り組めていない。</p>	○	<p>今後の運営推進会議で取り上げて取り組んでいけるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員で評価に取り組むことで評価の意義を理解し、指摘を受けた内容については話し合い改善に向けた取り組みを行っている。</p>	○	指摘を受けた内容について、どこをどうやって改善するのか計画を立て取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>概ね2ヶ月に1回は開催している。ホームでの生活状況の報告をし、家族や地域の方たちからの意見を聞き、次回の議題に取り入れるようにして質の向上に繋げている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>まだ、実施できてはいない。</p>	○	機会を設け、取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>全職員が理解はできていない。</p>	○	外部の勉強会に参加したり、ユニット会議等で勉強会をして学ぶ機会設けたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修等に職員が参加したり、運営推進会議で講師を招いた勉強会をし、入居者・家族も含む全員で高齢者虐待について話し合ったりしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約・解約については、管理者から十分な説明と、不明な点についてはその都度わかりやすく説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から、入居者の言葉や態度などに気をつけている。意見、不満、苦情を聞いた場合は、職員が全員で話し合い把握し、運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の暮らしぶりや健康状態については、受け持ちスタッフが毎月1回手紙を書いて送っている。金銭管理は、契約者が来たときに出納帳と残金を合わせて確認している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に『ご意見箱』を設置して、家族等が意見、不満、苦情等を伝えられるようにしている。また、家族等へのアンケートを実施する予定。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスやユニット会議はもちろん、日常的にも積極的に職員から進んで意見が出されるので、話し合っ運営に反映させるようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な職員数が確保できるように配慮している。急な受診等があった時は、職員で話し合い、勤務の延長をして柔軟に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	4月から6月にかけて職員の入退職・異動が重なったが、影響を受けそうな入居者に対しては他の馴染みの関係が出来ている職員が対応し、ダメージを抑えるよう配慮した。	○	利用者のダメージを考慮して、異動は必要最小限に抑えられるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>段階に応じて、グループホーム協会等の研修等に参加している。グループ内では教育委員会を設置しており、それぞれの職員がスキルアップできるよう、定期的な勉強会を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>勉強会などに参加してグループワークを行ったりして、同業者と交流する機会を持っている。</p>	○	より、交流できる機会を持ち、サービスの向上につなげていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>気づいたことや不満などを言いやすい環境を作っている。</p>	○	今後も、ストレスを軽減できるような環境作りに取り組んでいきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>管理者から運営者へ、職員の状況を報告、連絡、相談している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に本人と面談し、本人の希望や求めていること、不安などをよく聞く機会をつくり、受けとめるよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に家族と面談し、家族の希望や求めていること、不安などをよく聞く機会をつくり、受けとめるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族から相談があったときは、今までの生活習慣や疾病履歴・家族の要望などをよく聞き、認知や身体の状態を把握し、必要であれば他のサービス利用を促している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の想いをよく理解するよう心がけ、無理強いすることなく本人にあったサービスを提供できるよう努めている。また家族にも、馴染むための工夫を相談して協力してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒にすることを見つけ、一人一人との密なコミュニケーションを図るようにしている。してもらったり教えてもらったことには、感謝の気持ちを伝えている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に情報交換を行い、お互いに情報を共有できるようにしている。それらにより協力を得たり、ケアに反映させたりしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	頻回に面会に来る家族が多い。面会になかなか来られない家族には、面会の際にゆっくりと話ができるよう配慮し、本人の思いや気持ちを伝えられるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居前に住んでいる地域から離れている利用者が多いので、馴染みの場所や人と関わる機会がほとんどない。	○	時間のあるときには以前住んでいた土地にドライブに行ったり、馴染みの人が訪問してもらえるよう、支援に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の際、テーブルの座席は決まっているが、利用者同士気が合わない時等は、状況によって場所を変更している。コミュニケーションが困難な場合は、職員が間に入る事で関係が良好に保てるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院によりサービスが終了しても、お見舞いに行き関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式シートを利用している。更に普段のコミュニケーションや生活の中での言動、表情、態度等で把握するよう努めている。カンファレス等で本人の希望や意向を話し合い、本人本位の暮らしができるよう、統一した介護を提供している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式シートを利用している。入居してからも、本人や家族等とコミュニケーションを取ることで情報収集し、把握・理解に努めている。	○	全職員がセンター方式を充分理解し、活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	出勤してきたら、必ず生活シートを熟読している。変わったことがあれば、生活シートのカンファレンス欄に記載し、職員全員で情報交換を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の要望を聞いている。課題となる事柄を職員全員で話し合い、利用者が自分らしく暮らせるような介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	運営推進会議を通じ、町内会や地域に受け入れてもらい、協力体制を構築していきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	運営推進会議へ参加してもらえるように働きかけ、協力体制を構築していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力医療機関が月2回の在宅診療を行っている。看護職員ともよく相談しており、健康管理などを行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要な状態、状況に応じて、精神科や神経内科の医師に相談し、助言をしてもらっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の病院の看護師や医療連携、訪問看護師と相談し、入居者の日常生活状況を把握し、緊急時の対応を行えるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向け、家族や医療機関と情報交換を行いながら状態を把握している。入院中にはお見舞いに行き知っている顔を見ることで安心してもらえるように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、主治医・家族と繰り返し協議した上で、今後の方針を決めており、職員も主治医の指示に従い対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の入居者がいないため現在は行われていない。	○	今後の変化に備えて検討や準備を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境の変化による不安の軽減のためにも、関係者と十分な話し合いを行い、新しい環境に馴染めるように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の尊厳を守るため、その人に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。又、個人にかかわる情報は、施設外では一切口外せず、情報の持ち出しも行っていない。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>声掛けを多くし、疑問符を用いたり、選択肢を増やす工夫をし、本人の希望や自己決定を促している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人の状態や体調に配慮し、希望に添うように支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節や気候に合った衣類の調整に努めている。散髪は訪問理美容に来てもらっている。時には近所の美容院に行き、パーマをかけに行くこともある。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。食事は、音楽を流してゆったりとした中で食べている。食器濯ぎや食器拭きは、できる利用者と一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居前と同様に、毎晩晩酌している利用者がある。家族が、本人の好きなものを選んで購入している。また、希望のお菓子をスタッフが購入してきている。週1回移動販売のパン屋が来て、パンなどを自分で選び購入している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分から教えてくれたり、わからない利用者は、周期に合わせて声をかけてトイレへ誘導したり、おむつ等の交換したりしている。また、仕草や落ち着きがない様子など読み取り支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本は、午後入浴としているが、希望があれば希望の時間帯に実施するように心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やその日の様子に合わせて就寝時間や起床時間の対応を行っている。また、夜間不眠の訴えがあった場合は、眠くなるまで職員と過ごすなどして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事の一部を手伝ってもらったり、服のほつれを直してもらったりなど、日課や役割を持ってもらい、利用者の特技を生かせる機会を作っているようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる利用者には、小銭を自分で管理してもらって、移動販売などで買い物している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や体調を見て散歩に出たり、家族と外出したりしている。	○	できるだけ希望に沿って外出できるよう、職員が連携し対応していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段の会話の中などから、行きたい場所・やってみたいことを聞き出し、職員と家族とで連携をとりながら、出かけられる機会を設けるよう心掛けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を個人で所有している利用者がある。また、電話をかけたいときや手紙を送りたいときには、支援もしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人と、居室・居間などの自分の好きな場所でゆっくりと過ごせるようにしている。また、面会時間は自由なのでいつでも寄りやすく、仕事帰りに来る家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会や勉強会に積極的に参加し、身体拘束をしないケアについて職員の共有認識を図り、実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が外出する際には、必ず声を掛けてもらい、人の出入りに注意している。職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、適宜居室へ様子を見に行っている。また、夜間帯は2時間毎の巡回とともに、物音に対して迅速に対応し、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に合わせて、保管・管理を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が起こりそうな事象に気付いた時には、予測される危険や防止策について話し合い、改善を行っている。また、インシデントレポートを利用し、事故を未然に防ぐ努力をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	独自の緊急対応マニュアルや緊急時の対応に関する本などを常に閲覧できる場所に保管している。また、定期的に一般救命などの講習を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員は消防訓練を行い災害に備えているが、地域の人々の協力までは得られていない。	○	地域、町内、近所の人たちに協力してもらえよう、運営推進会議に提案していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族に面会の時や月1回の手紙で利用者の様子を伝え、また、ケアプランを使ってリスクについて家族に説明し同意を得たうえで、状態に合った支援を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日血圧や体温を測り、利用者の状態の観察をし、異変があればかかりつけ医や看護師に連絡し対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必要に応じて確認できるよう、薬の情報提供書を個人別にファイルしている。職員は一人一人が服用している薬の理解をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取や繊維質な食べ物を摂るように努めており、自分で動ける利用者には、運動を促している。腸の動きの悪い利用者に対しては、腹部のマッサージを行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行い、磨き残しは職員が手伝っている。また、夜間は義歯を預かり、洗浄剤につけて清潔を保持できるよう支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員が栄養バランスやカロリーに考慮し、交替でメニューを作成している。また、各自にあった量を盛り付けるように配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会でマニュアルを作成し、それに沿って取り組んでいる。職員はもちろん、面会に来た家族などにも、手洗いやうがいの徹底を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>感染委員会で食品管理衛生マニュアルを作成し、それに沿って食材の取扱いや管理をしており、予防に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先にはプランターを設置し、親しみやすい環境を作るよう心掛けている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に合った飾り付けをし、四季を感じられるように心掛けている。また、身近に植物を置くようにしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファーやマッサージチェア、畳の小上がりを設置し、くつろげる空間作りを心掛けている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者にあつたベッドや家具の配置に気をつけ、家族の写真や手紙、お気に入りのものを飾っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>頻りに窓を開けたりして、換気を行っている。また、各自の居室やホールの温度、湿度の調整は、時間帯や季節に応じて配慮し、管理している。冬季は加湿器の設置また、居室には湿度保持のため濡れタオルを掛けている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下やトイレ、浴室などに手すりを設置し、安全に自立した生活を送れるよう支援している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者一人一人のわかる、できる力を職員が把握し、本人が少しでも自立して暮らせるようにしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に花畑と畑を作り、その横にベンチを設置し、いつでも畑まで出て来られるような環境づくりができています。	○	積極的に外で過ごす時間が確保できるよう、環境を整えていきたい。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input checked="" type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている            ②少しずつ増えている  <input checked="" type="radio"/>③あまり増えていない            ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての職員が            ②職員の2/3くらいが            ③職員の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が  <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらいが            ③利用者の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が            ②家族等の2/3くらいが  <input checked="" type="radio"/>③家族等の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)